

写真集
日本陸海軍八十年

麓 保孝監修
国書刊行会編

国書刊行会

■本書の七大特徴

- 一、唯一の眼で見る帝国陸海軍史
- 一、軍の制度・軍備・兵器・教育などの変遷と戦闘場面・兵士の生活情景・銃後の姿などを約千五百葉の写真で再現
- 一、各時代の流れを理解できる簡明な解説を付す
- 一、詳細な軍事年表を写真と対照して併載し、あわせて戦争・事変の経過図を収録
- 一、未公開写真を多数収む
- 一、巻末資料として、重要作戦経過図（三色）を九枚（西南・日清・日露・支那・大東亜他）など貴重資料を収録
- 一、重要事項の解説

■造本・体裁

A4判（225×297ミリ）
クロス装・函入
豪華保存版
総四四〇頁
定価九、八〇〇円

■お申し込み方法

ご注文は、お近くの書店にご用命下さい。
書店が近くにないときには、直接当社にご注文下さい。その場合は書名と冊数を明記して下さい。

発行所

国書刊行会

〒170 豊島区巢鴨3-5-18
TEL 03(917)8287 代表
振替・東京5-65209

特約店

栄光の建軍から終戦の日まで!!

写真集
日本陸海軍八十年

付・軍事年表

好評発売中!!

A4判・クロス装・函入
豪華保存版
定価九、八〇〇円

◇監修

防衛大学校名誉教授・文学博士

◇序文

参議院議員・元航空幕僚長

源 田

実 次

日本郷友連盟会長・元陸上幕僚長

杉 田

一 次

日本遺族会会長・衆議院議員

村 上

勇 次

防衛庁統合幕僚会議議長・陸将

栗 栖

弘 臣

作家

岡 庄

山 岡

八 臣

◇解説

防衛研修所戦史部教官

森 村

俊 夫

◇編纂

松 俊

◇編纂

国書刊行会

◇編纂協力・写真提供

財団法人偕行社／財団法人史料調査会海軍文庫／防衛研修所

戦史部／世界の艦船／編集長

・石渡幸二／兵器評論家・小

橋良夫ほか

◇写真点数

約一五〇〇葉

◇発行

国書刊行会

わが郷土聯隊かく戦えり！
聯隊写真集

3月より、各聯隊別に発行

編纂にあたって

戦後三十二年、我が国は敗戦の痛手から完全に立ち直り、今や世界有数の経済国に成長した。もとより我が民族の勤勉さと優秀さを物語る事実であるが、明治維新以来嘗々と努力を積み重ねてきた先人達の苦闘の歩みを忘れてはならない。功罪得失はあるが、陸海軍がわが近代国家建設に演じた役割の大きさを思うとき、陸海軍の足跡を辿ることは日本の近代史を振り返ることに通ずるだろう。

本書は維新の栄光の建軍より、今次大戦の敗戦による壊滅まで、写真によって陸海軍の歴史を展望しようとしたものである。編纂にあたっては、陸海軍の制度・軍備・兵器・教育などの変遷と戦闘場面・兵士の生活情景・銃後の姿などを軍事年表と時代別解説をもって編年順に配列した。特に時代を画する戦争・事変については日本軍の作戦展開をわかりやすく編集し、ここに日本陸海軍の足跡を一望できるものとした。

本書によって帝国陸海軍の全貌が正しく理解され、我が国将来の発展にいささかでも資することができれば幸いである。

昭和五十三年一月

国書刊行会

本書に贈られた言葉（序文より抄録）



わが国を、「豊葦原の千秋の長五百秋の水穂の国……」と、天照大御神が仰せられたことは、古事記にも明記されている。その天照大御神の仰せを畏み、世々、農耕の民としてわが日本民族は存続して来た。

然し、鎌倉・室町と時代は変遷し、織田信長・豊臣秀吉と戦乱の時代を経て、徳川家康は、天と地の中道、陽と陰との中道の理をよく辨えて治世に当り、世界の人々を驚嘆させた徳川三百年の泰平の世を築く礎石を作ったが、明治維新という新しい時流に押され、この三百年の泰平も瓦解の止むなきに至った。これには、世界的情勢の変化によるところ大なるものがあると思う。

山岡 莊 八

ノモンハン事件勃発

張鼓峰付近の国境紛争に続いて昭和十四年五月にはノモンハンで再び日ソ両軍の衝突がおこった。満蒙国境線については、日ソの主張に



バルシヤガル高地付近のハルハ河を渡る

かねてより違いがあり、5月の外蒙軍の越境を追った日本軍はソ連軍の強力な火力の前に撤退せざるをえなかった。7月2日準備を整えた日本軍はハルハ河を渡河、対岸に進撃したが、ソ連軍の反撃により後退し、ハルハ河右岸地区に陣地を構築した。しかし、8月20日からのソ連軍の猛攻撃の前に壊滅的な打撃をうけた。この事件によって日本軍の装備の遅れが認識され、また事件最中の8月23日には独ソ不可侵条約が締結されたこともあって9月15日には停戦協定が結ばれた。



第一章 帝国陸海軍の創建

と西南戦争

(明治元年～明治十年)
王政復古の大号令下る／幕府軍／鳥羽・伏見の戦／天保山沖の海軍御親閲／五カ条の御誓文と江戸の開城／彰義隊の戦／会津城攻略／函館五稜郭の戦／江戸より東京へ／海陸軍の基礎／陸軍省海軍省設置／勝安房、海軍卿となる／近衛連隊に軍旗授与／整備された各種の施設／台湾派兵と江華島事件／佐賀の乱おこる／西南戦争勃発／明治初年の兵器

第二章 初の対外戦

日清戦争

(明治十一年～明治二十八年)
士官学校開校と竹橋事件／参謀本部等設置さる／別格官幣社靖国神社／琉球に廃藩置県を断行／村田銃を軍用銃に制定／軍人勅諭下る／壬午・甲申の事変と鹿鳴館／陸軍大学校・海軍大学校開かる／海軍拡張急務となる／内閣制度始まる／第一～第六師団設置さる／鎮守府条例制定／明治十年代の野砲／海軍兵学校江田島に移転／教育制度の整備と艦隊条例／勲章制定と帝國憲法発布／徴兵令改正と大演習／国産艦／シベリア横断と千島探険／日清戦争勃発／黄海海戦／第一軍・第二軍の進撃／威海衛を制圧／凱旋／講和条約調印と三国干渉／台湾に軍政をしく

第三章 国運を賭けた

日露戦争

(明治二十九年～明治三十八年)
師団増設と陸軍幼年学校／海軍拡張計画実行さる／三十年式歩

昭和十五年（一九四〇）

- 1・1 支那派遣軍、秋までに事変解決と声明。
- 1・21 浅間丸事件。
- 2・2 議会で齊藤代議士の事変目的質問演説が問題化。陸相、演説取消しを要求。
- 2・9 南支方面軍および第二軍編成。
- 2・12 陸相、議会で省内補佐機関の政治的発言を許容と声明（軍部の政治干渉拡大）。
- 2・21 支那事変解決のための日米懸案解決内容を発表。
- 3・9 大阪に阪神海軍部設置。
- 3・30 中華民国新政府還都式、華北政務委員会成立。
- 4・1 陸軍航空工廠、兵器廠、製絨廠各令公布。
- 4・12 南支方面軍、広東港開放声明。
- 4・15 海軍第四艦隊、パラオに出動。
- 4・24 陸軍志願兵令公布。
- 5・1 第十一軍、宜昌作戦開始。
- 5・18 陸軍、対支処理方針決定。
- 5・19 陸軍、科学者百余名を招聘、兵器技術開発協力を要望。
- 6・9 日ソ間でノモンハン国境確定。

〈収録内容①〉